

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393100013		
法人名	株式会社 ケアサポート		
事業所名	グループホーム 若葉園 南館		
所在地	熊本県球磨郡多良木町多良木1537		
自己評価作成日	令和5年9月7日	評価結果市町村受理日	令和5年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和5年9月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれた中で緑が多く季節を感じ生活して頂けるのが特徴です。ご本人様やご家族様が大切にされている気持ちを私達も大切にし、気に掛ける気持ちを持って一緒にいます。お一人、お一人の声を大切にし、家庭的な雰囲気の中で、ご利用者様と職員が生活を共にしていることを意識し、ゆっくりと関わりをもつようにし、落ち着いた環境でゆっくりとコミュニケーションをとり、居心地よい温かい生活、安心・安全な生活が送れるよう努めています。すぐご家族様には気軽にいつでも帰ってきていただけるような家でありたいと職員で取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この5月に開設17周年を迎え、記念事業としてグランドゴルフ大会や長年運営に貢献された職員の永年勤続表彰(5・10・15年)が行われている。家族の介護のために一時ホームを離れた職員の「20・30代の介護は今振り返ると浅かったと思う」との一言は年齢を重ね介護の深さ、重みを改めて実感されているようであった。敷地内に学童クラブを併設しており、公園に向かう子どもたちの姿を嬉しそうに眺めておられるなど、入居者の楽しみ事となり、今後合同行事や互いの事業所訪問に繋がればと考える。家族の厚い信頼の裏には入居者やホームの細やかな情報発信、各研修会(身体拘束・防災対策など)で職員のレベル向上と支援の充実を図り、内容報告までを行うことで安心材料の一つとなっている。今後も地域福祉の発展に寄与されることが大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をフローアなどに提示し、職員が理念をサービス提供において意識しケアにつなげている努力をしている	開設当初からの理念を今日まで大切に育んでおり、管理者は運営推進会議や職員が集まる機会には折に触れ、理念を通してホームの姿勢を伝えるようにしている。「家庭的な生活感環境の提供」をはじめとして6項目からなる内容が資料や記録に残されており、理念が入居者支援に反映されていることが窺える。	ホームが大切にしている理念であるが、年度終わりなどに内容の変更の有無にかかわらず、見直しの機会を持たれることも必要と思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で交流が難しくなっていたが、状況を見ながら徐々に交流の機会を設けていきたいと考えている	法人主催のグランドゴルフ大会には、本年も地域や関係者総勢170人も人が参加して交流を楽しまれている。大会には地元警察署より交通ルールや昨今の社会問題などについて講和の時間が設けられるなど、地域社会の危機管理の一役を担っている。コロナ感染症が5類移行に変更になったことで、地域への散歩の機会も増え、併設する学童クラブの外出の様子を楽しみに眺めておられるようである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで区長、民生委員の方からの情報や相談、認知症にかかわることなど話をお聞きし、助言を行いながら一緒に取り組んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行いご利用者様の生活状況や施設での課題をあげ、参加者の意見や助言、施設への要望を受け止めサービス向上に努めている	運営推進会議は隣接する小規模多機能事業所との合同開催としており、互いの情報を共有して運営に反映させている。感染症発生により書面審議とした回を除き、直接開催が実現しており、入居者の現状や詳細な事故報告、研修の状況などを発信し、参加者から意見や提案がもたらされている。	学童クラブが併設されていることで入居者の楽しみや刺激となっているが、今後推進会議を活用して地元警察署より不審者などを想定した防犯対策について話をもらうことも検討願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当課へ施設での相談、またご利用者様からの相談事などグループホームの状況を伝え積極的な協力関係を築けるよう努力している。行政機関の相談も可能な限り努力をし、支援に取り組んでいる。	運営推進会議には行政担当者及び包括職員が参加しており、認知症カフェ設立の要望などもあがっている。運営上のアドバイスを受けたり、困難事例の相談に応じてもらいながら良好な関係継続に努めている。当行政区では「認知症対応型共同生活介護事業利用者負担軽減助成制度」が実施されており、ホームが手続きを代行しながら家族の負担軽減につないでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行い身体拘束の意味を理解するとともに認知症状を理解し利用者方々の尊厳を大切にしている。日頃より、接遇や身体拘束について気になった時には職員同士で注意しながらケアに取り組んでいる。	「身体拘束ゼロ宣言」を玄関に掲げ、いかなる拘束も行わない事をホームの方針として運営推進会議などで紹介している。定期的な研修会では新聞記事などから身近な事例をもとに意見を出し合い、入居者への言葉使いや食事中のエプロンの使い方などについて、統一した支援が行われている。身体拘束の研修内容については、家族へも文章で報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や指導により理解を深め、職員同士でケアの振り返り、互いに注意しあえる環境を作り、曖昧なままにしないようにしている。職員のストレスやケアにたいする不安を聞き取り改善にできるよう話し合いを持つようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名成年後見人対応の利用者様がおられ、研修などで職員へ制度について説明し、対応、理解につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時より、施設説明などを行い、不安や疑問点をお聞きし、納得して頂ける様に時間をかけ対応している。遠方に居られるご家族様においては写真等で見ていただき電話での連絡も時間問わず受付行い対応し不安の解消に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族様からいつでも相談しやすい雰囲気や環境作りに努めている。運営推進会議でご家族様からの意見は報告し助言をいただくなどしている。職員でもケア検討し改善に努めている。	入居者が自ら意見や要望を口にされることは少ないようであり、職員は入居者同士の会話から把握するようにしている。家族とは現在窓越し面会を実施しており、動画やテレビ電話などで入居者の様子を見てもらいながら意見をもらうように努めている。	ホームにおいても職員で検討した内容をもとに家族アンケートを実施されることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から、個々の職員と話す機会を持ち、運営上での気づき、提案など聞いている。各棟でのミーティング時などの意見など回覧で共有している。	ユニットごとに出された意見は全職員で共有し、ケア向上や業務改善に反映されている。研修後には個々の気づきを収集して、今後に向けた取組を検討しており、一人ひとりが運営に関わるよう工夫している。この5月には開設17周年を迎えて、永年勤続表彰が行われるなど、職員のモチベーションにもつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休を聞き働きやすい環境に努め、有休の取得状況を見ながら、積極的に取得を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加や資格所得への支援を行い意欲を持って取り組める様努めている。新人職員に対しても力量を把握し、各自に合った指導に心かけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会への参加(研修や懇親会)により、情報収集や交換に努めている。職員でも研修などに参加し事例など意見交換し勉強に機会になっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前に面談を行い今までの生活状況を聞き取り、現在の状況、ご利用にあたっての心配事などを十分に聞き、職員間で情報を共有しケアにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階で、ご家族様と時間をかけ話し、特にご利用料金面でのご相談には気持ちを受け止め進めている。将来的な心配事も抱えられている為、グループホームでの考えを伝え、安心してご利用いただけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と生活を一緒にしていることを気に留め、同じ生活者として互いに協力関係にある事を職員が意識し関係づくりに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活の様子や状況などを便り、写真などでお伝えし、ご本人、ご家族、施設が共に支え合いの関係である事を感じていただくようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で規制されていた面会の緩和を進めながら、面会を行っている。入居前に利用されていた美容室などへは変わらず外出できるよう支援している	全員が女性入居者であり、日々の家事(洗濯・食への関わりなど)には入居者自身が得意とされることに参加してもらうようにしている。方言も慣れ親しんだものとして尊重し、職員は入居者にわかりやすい表現を心掛けて対応している。離職の少ない職場環境が入居者と職員の馴染みの関係性を作っており、研修会では決して馴れ合いになることがないよう注意を払うようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビング内の人間関係の把握に努め座席を配慮するなどし日常活動の取り組みへ安定した生活ができるようサポートに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族様からの要望、相談を受け必要なサービス支援の提案や関係機関へ繋いで、今後の生活への不安が少しでも軽減する様にお手伝いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を把握し、会話や表情から理解に努めている。 職員間でも情報を共有した上でコミュニケーションに努め、思いの充足を図っている。	職員は入居者との普段の関わりから思いを引き出し、支援に反映している。家族の思いは面会時や電話などで収集し、毎月家族宛てに共通の便りと個々の報告書を送付して、入居者の近況をみてもらい意見の引き出しのきっかけとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご本人、ご家族、担当CMより詳しく話を聞き、職員間で共有している。細かい部分は、入居後共に生活して行く中で把握し、良好な関係を築く様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェック、その時々々の心身の状態を確認しながら一人一人のペースに合わせて、支援を行っている。また、職員間での情報の共有を図り状態の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本様、ご家族様の意見を大切に、職員全員でミーティング、カンファレンスを行い、必要時には、主治医から現状説明や今後の状態を家族様に説明して頂き、良好なケアプラン作成、適切なサービス提供に努めている	職員を入居者の担当制としており、個別の報告書には担当職員が関わり日常の何気ない様子を伝えている。ミーティングはケア検討会を兼ね担当者だけではなく、全職員の気づきや提案がプラン作成につながっている。入居直後のプランには入居者・家族の意向を優先し、生活歴や前事業所からの情報を総合的に判断し、まずは安心して過ごしてもらうような内容を立案している。3か月後に評価し、現状を見ながら見直しを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に毎日の食事、水分摂取、バイタルを記入、朝夕の申し送りの中で情報を共有し、話し合いを行いより良い支援ができる様に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の要望や急な受診、外出の付き添いで家族様の対応が困難な場合には、勤務変更も含め体制を整え要望に対応できるようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の状態に合わせ往診の可能な主治医と配達サービスのある薬局を利用する事で、待ち時間の短縮、施設を空ける時間の短縮で、サービス提供に対応できる様にしている。薬剤師への相談も気軽に出来る		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の手厚い協力のもと、定期受診以外でも夜間、休日、急な状態変化、看取りへの対応もして頂いている。病状等の説明の時も、ご家族様の気持ちに配慮された説明をして頂き、家族様からの信頼もある。専門医の受診が必要な時もスムーズに受診できている。	開設当所からホーム運営に理解のある協力医を現在、全員がかかりつけ医とし、月1回や必要に応じた受診支援が行われている。コロナやインフルエンザ流行時は受診を控え、情報提供のみ行い指示を受けている。歯科は必要時に地域の歯科や治療内容によっては、公的医療機関などの紹介を受けている。日頃の口腔ケアは職員による磨き残しなどのチェックや義歯の確認が行われている。一人ひとりの健康状態や受診結果の家族への報告は内容に応じて主治医により行われており、家族の安心や信頼に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニット、同じ敷地内、小規模にも看護師がおり協力体制が出来ている。体調変化があった場合、すぐ報告し看護師より主治医に繋ぎ早急に対応が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族が対応が困難な場合は、入院の準備、必要物品持参、洗濯物の回収などお手伝いしている。入院先の看護師、相談員の方とは状態を共有し、退院時の受け入れもスムーズにいこう関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時点で、重症化した場合や終末期での施設でできる範囲を説明し、家族様の不安ごとや意向を聞きとっている。状態の変化があった場合には、気持ちに配慮し家族様の気持ちに変化があった場でも柔軟な対応に努め主治医と相談し取り組んでいる。	契約時に重度化・終末期に関し、ホームに出来得る支援について説明を行い、質問を受けながらその時点での家族の思いや意向を確認している。また、状態に変化が生じた際、あらためて意向を確認し、主治医と連携を図りながら最良の支援に努めている。直近ではホームに11年過ごされた方の看取り支援が行われている。家族が最終に立ち会えない場合、本人を一人にすることなく職員誰かが傍で過ごすなど、その方との時間を大切に最終の支援が行われている。支援後は本人を偲びながら振り返りの時間が持たれている。	コロナ禍の看取り支援では、状況を見ながら家族の付き添いも行われ、支援後は感謝の言葉が寄せられている。今年度は「あきらめないで生活できる支援」について研修を行い、重度化・終末期支援につなげている。今後も協力医と連携を図りながら本人・家族の思いに応える支援に取り組まれることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが看護師に救急処置指導、急変や事故連絡などの対応を職員間で的確にできる様にしている。事故発生後には、早急に振り返りを行い、改善策を検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	携帯でハザードマップを使用した研修を行い、災害時の避難場所、避難経路を確認を行いました。地域との協力体制作りには強化が必要と考えています	年2回の避難訓練を実施し、うち1回は消防署の参加協力が得られている。自然災害については机上訓練として携帯でハザードマップを使用した研修を行っている。ホームを含む法人施設は地域の避難所となっており、BCPについては現在作成中である。今後は地域との協力体制の強化を課題としている。	備蓄は主に北棟で確保しているが、リストの作成には至っておらず今後の取組が期待される。地域との協力体制についてまずは、地元消防団との意見交換から始める事も良いと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉や態度などには職員一人一人が注意をしている。ご利用者様はもちろんですが職員で不快に感じた場合には注意をしている	職員一人ひとりが尊厳やプライバシーに配慮して支援にあたるよう周知を図っている。言葉使いを含め入居者への対応で気になる事は、管理者や職員同士でも注意し合えるように努めている。入浴時の同性介助については、希望に沿うよう職員を配置し対応している。身だしなみやおしやれについては、本人の希望や好みを尊重し、自身での衣類の選択や一緒に選んだり、汚れや損傷がないかなども確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症により意思表示が困難な方にも、日常の言動や行動から感じ取るようにしている。声かけを多くし、コミュニケーションを深めるようにしている。職員優先のケアにならないようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の流れはある程度決まっているが、ご本人のペースで過ごして頂くを大切に、職員も柔軟な対応を心がけ、個々の希望が出来る限り実現できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	ご本人が好まれるものを優先しながら職員が声掛け支援する場面もある。清潔感を意識し、髪の毛の乱れや洋服のほつれ、汚染などに気づいた時は直ぐに対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆拭きや、野菜の下ごしらえをして頂ける方、個々に出来る事を職員と一緒に取り組んでいる。食事状況などから嗜好把握しメニューに取り込んでいる	“栄養に配慮し、美味しい食事の提供”を理念に掲げ、職員によるホーム内調理が継続されている。献立は入居者の好みや季節感を取り入れ職員が当番で立てており、食材は精肉、鮮魚を専門店から、野菜や日配品なども地域商店から配達されている。お節やひな祭り、クリスマスなどの行事食や誕生日には好みのメニューとケーキを準備し祝っている。ホームの食事は入居者に好評であり、職員も励みになっている。入居者の中には「こんくらいん事はせんば〜！」と野菜の下ごしらえなど積極的に携わる方もおられるようである。	盛り付けやデザート(梨)を提供する際、塩水にくぐらすなど細やかな工夫が見られた。職員も同じものを摂ることで入居者と思いが共有できており、継続した取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を毎日記録しながら健康管理に努めている。状態の低下がみられる時には形態の変更や好みのものを提供しながら摂取量確保に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人、一人の口腔ケアにあたっては、ご自分でできる方も気になる際には確認させていただき状態把握を行い、必要時には歯科受診へとつなげている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録から個々の排泄間隔を把握し、声掛け行いトイレでの排泄を大切にしている。紙パンツやパット類の使用は極力減らすよう職員間でも検討し適切な使用に心がけている。	排泄の声掛けや誘導を必要とされる方は少なく、殆どが自立されており、個々に応じて必要な支援を行っている。排便については健康把握の面からプライバシーに配慮しながら確認している。布パンツを使用される方も多く、継続できるよう支援している。紙パンツやパット使用者にも時間帯での使い分けなどを検討し、極力使用を減らすことで家族の負担軽減につなげている。排泄用品はホームで準備しているが、家族の購入による持参もありサイズなど適切なものを伝えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を確認し、食事の際に牛乳や乳製品を提供するとともに内服を調整し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、個々の体調、希望など考慮している。入浴の抵抗が見られる方もタイミングを合わせたり、2人介助を行うなどし安全な入浴が出来る様になっている。	入浴は体調に配慮し週2回午前を中心に支援しているが、希望があれば午後からも対応している。入浴は職員とマンツーマンの時間であり、ゆっくり関わり湯温も確認しながら、温湯を足すなど好みに応じて調整している。冬至の際は職人が持ち寄った柚子を使用し、季節風呂を楽しんでいる。	浴室に置かれた洗剤やシェーバーについては、安全面からも別の場所で管理されることが望ましいと思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝起床時間は時間設定は行わずご本人のペース、状態に合わせている。午後から午睡される方もおられるが、夜間の睡眠に支障のないよう時間に配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご本人が服用されている内容の薬情報書を職員全員が閲覧できるような管理を行っている。内容変更時も周知確認できるようにしている。薬剤の形態も本人の状態に合わせ薬剤師と相談して対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人差はあるが、ご本人の嗜好を捉えた支援が出来るようにしている。また、ご本人の状態の把握も行い、負担のかからない活動をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族とのお墓参りなどの外出で要請があれば送迎を行うなど可能な限り希望に添うよう心掛けている。長年利用されていた美容室へ少々遠方ではあるが送迎行い、互いの安否確認にもなって喜ばれている	ホームの目の前は広い公園があり、気候の良い春先は散歩に出ていたが、夏場は暑さもあり、窓を開けて外気浴などを支援している。墓参や馴染みの理美容には送迎をするなど、希望に沿って支援している。	今後は感染症の状況を見ながら、敷地内の散歩の継続や家族の協力による外出なども取り組まれることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、自己管理でお金を所持されている方はいないが、ご本人の希望の品物など職員と一緒に外出し買い物されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの贈り物などがあつた際には、お礼の電話や手紙を書かれたりしてご家族様も喜んでおられる。親戚の方等の面会があつた場合にはご家族へ写真とともに報告している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はご利用者様や面会に来られた方が不快な思いをされることのないよう音量や障害物に配慮している。なかでも臭いには特に気を配り排せつ臭除去、過剰な消臭剤は使用しないようにしている。隣の工場の音が気になる際には窓を閉め空調管理を行い消音に努めている	共用空間は入居者とともに来訪者にとっても不快なく過ごせるよう、掃除や換気、整頓に努め、臭気対策も消臭剤に頼らないよう心掛けている。リビングには各ユニットが工夫しながら、入居者と一緒に壁面制作を行っており、季節を感じる一つとなっている。エアコンの温度調整は入居者に尋ねながらユニット間で検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の意思で自由にリビングや居室で過ごしていただけるような雰囲気を作っている。居室で過ごされる場合にはご本人の不快感にならないよう配慮し安全確認させていただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた家具など持ってきて置いて頂き、大切な写真や手紙など飾り以前と変わらないように環境を配慮している。家族が遠方で荷物の運び出しができない場合は自宅へ行き、電話で話しながらできる限り希望に添うものを持参できるようお手伝いさせていただいている	ゆとりの広さと掃き出し窓の居室からの眺めは、樹木や田畑など、入居者に馴染みの光景である。自宅で使用していた家具に加え、前入居者が退所時に残されたタンスなども、希望があれば活用されている。季節外の寝具や衣類は年間ホーム(居室)で管理し、不足などがあればその都度依頼している。明るい居室には遺影や位牌、家族や思い出の写真など、本人にとって安心できる品が持ち込まれており、職員は換気や掃除、動線への配慮など居心地や安全に過ごせる環境整備に努めている。	面会を制限されている家族にとって、居室内の様子は気になる点と思われる。安心につながるよう部屋の様子を伝える取組に期待したい。コロナ禍以前には簡易ベッドを置き、居室に宿泊される家族もおられ、本人も楽しみにされていたようである。管理者はこのような取組がまたできるようになればと語っている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の案内プレート等設置し、手すり、バリアフリーなど安全な環境を考慮しながら自ら生活を実感できるよう支援している。居室内では個々の動線を確認し安全に配慮しながらも心地よく過ごせる環境整備に心がけている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393100013		
法人名	株式会社 ケアサポート		
事業所名	グループホーム 若葉園 北館		
所在地	熊本県球磨郡多良木町多良木1537		
自己評価作成日	令和5年9月7日	評価結果市町村受理日	令和5年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年9月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれた中で緑が多く季節を感じ生活して頂けるのが特徴です。ご本人様やご家族様が大切にされている気持ちを私達も大切に、気に掛ける気持ちを持って一緒にいます。お一人、お一人の声を大切にし、家庭的な雰囲気の中で、ご利用者様と職員が生活を共にしていることを意識し、ゆっくりと関わりをもつようにし、落ち着いた環境でゆっくりとコミュニケーションをとり、居心地よい温かい生活、安心・安全な生活が送れるよう努めています。ご家族様には気軽にいつでも帰って来ていただけるような家でありたいと職員で取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をフロアーなどに提示し、職員が理念をサービス提供において意識しケアにつなげている努力をしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で交流が難しくなっていたが、状況を見ながら徐々に交流の機会を設けていきたいと考えている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで区長、民生委員の方からの情報や相談、認知症にかかわることなど話をお聞きし、助言を行いながら一緒に取り組んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行いご利用者様の生活状況や施設での課題をあげ、参加者の意見や助言、施設への要望を受け止めサービス向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当課へ施設での相談、またご利用者様からの相談事などグループホームの状況を伝え積極的な協力関係を築けるよう努力している。行政機関の相談も可能な限り努力をし、支援に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行い身体拘束の意味を理解するとともに認知症状を理解し利用者の方々の尊厳を大切にしている。日頃より、接遇や身体拘束について気になった時には職員同士で注意しながらケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や指導により理解を深め、職員同士でケアの振り返り、互いに注意しあえる環境を作り、曖昧なままにしないようにしている。職員のストレスやケアにたいする不安を聞き取り改善にできるよう話し合いを持つようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名成年後見人対応の利用者様がおり、研修などで職員へ制度について説明し、対応、理解につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時より、施設説明などを行い、不安や疑問点をお聞きし、納得して頂ける様に時間をかけ対応している。遠方に居られるご家族様においては写真等で見ていただき電話での連絡も時間問わず受付行い対応し不安の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族様からいつでも相談しやすい雰囲気や環境作りに努めている。運営推進会議でご家族様からの意見は報告し助言をいただくなどしている。職員でもケア検討し改善に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から、個々の職員と話す機会を持ち、運営上での気づき、提案など聞いている。各棟でのミーティング時などの意見など回覧で共有している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休を聞き働きやすい環境に努め、有休の取得状況を見ながら、積極的に取得を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加や資格所得への支援を行い意欲を持って取り組める様努めている。新人職員に対しても力量を把握し、各自に合った指導に心かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会への参加(研修や懇親会)により、情報収集や交換に努めている。職員でも研修などに参加し事例など意見交換し勉強に機会になっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前に面談を行い今までの生活状況を聞き取り、現在の状況、ご利用にあたっての心配事などを十分に聞き、職員間で情報を共有しケアにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階で、ご家族様と時間をかけ話し、特にご利用料金面でのご相談には気持ちを受け止め進めている。将来的な心配事も抱えられている為、グループホームでの考えを伝え、安心してご利用いただけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と生活を一緒にしていることを気に留め、同じ生活者として互いに協力関係にある事を職員が意識し関係づくりに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活の様子や状況などを便り、写真などでお伝えし、ご本人、ご家族、施設が共に支え合いの関係である事を感じていただくようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で規制されていた面会の緩和を進めながら、面会を行っている。入居前に利用されていた美容室などへは変わらず外出できるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビング内の人間関係の把握に努め座席を配慮するなどし日常活動の取り組みへ安定した生活ができるよサポートに努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族様からの要望、相談を受け必要なサービス支援の提案や関係機関へ繋いで、今後の生活への不安が少しでも軽減する様にお手伝いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を把握し、会話や表情から理解に努めている。職員間でも情報を共有した上でコミュニケーションに努め、思いの充足を図っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご本人、ご家族、担当CMより詳しく話を聞き、職員間で共有している。細かい部分は、入居後共に生活して行く中で把握し、良好な関係を築く様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェック、その時々々の心身の状態を確認しながら一人一人のペースに合わせて、支援を行っている。また、職員間での情報の共有を図り状態の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本様、ご家族様の意見を大切にし、職員全員でミーティング、カンファレンスを行い、必要時には、主治医から現状説明や今後の状態を家族様に説明して頂き、良好なケアプラン作成、適切なサービス提供に努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に毎日の食事、水分摂取、バイタルを記入、朝夕の申し送りの中で情報を共有し、話し合いを行いより良い支援ができる様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の要望や急な受診、外出の付き添いで家族様の対応が困難な場合には、勤務変更も含め体制を整え要望に対応できるようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の状態に合わせて往診の可能な主治医と配達サービスのある薬局を利用する事で、待ち時間の短縮、施設を空ける時間の短縮で、サービス提供に対応できる様にしている。薬剤師への相談も気軽に出来る		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の手厚い協力のもと、定期受診以外でも夜間、休日、急な状態変化、看取りへの対応もして頂いている。病状等の説明の時も、ご家族様の気持ちに配慮された説明をして頂き、家族様からの信頼もある。専門医の受診が必要な時もスムーズに受診できている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニット、同じ敷地内、小規模にも看護師がおり協力体制が出来ている。体調変化があった場合、すぐ報告し看護師より主治医に繋ぎ早急に対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族が対応が困難な場合は、入院の準備、必要物品持参、洗濯物の回収などお手伝いしている。入院先の看護師、相談員の方とは状態を共有し、退院時の受け入れもスムーズにいくよう関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時点で、重症化した場合や終末期での施設でできる範囲を説明し、家族様の不安ごとや意向を聞きとっている。状態の変化があった場合には、気持ちに配慮し家族様の気持ちに変化があった場でも柔軟な対応に努め主治医と相談し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが看護師に救急処置指導、急変や事故連絡などの対応を職員間での確にできる様にしている。事故発生後には、早急に振り返りを行い、改善策を検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	携帯でハザードマップを使用した研修を行い、災害時の避難場所、避難経路を確認を行いました。地域との協力体制作りには強化が必要と考えています		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉や態度などには職員一人一人が注意をしている。ご利用者様はもちろんですが職員で不快に感じた場合には注意をしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症により意思表示が困難な方にも、日常の言動や行動から感じ取るようにしている。声かけを多くし、コミュニケーションを深めるようにしている。職員優先のケアにならないようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の流れはある程度決まっているが、ご本人のペースで過ごして頂くを大切に、職員も柔軟な対応を心がけ、個々の希望が出来る限り実現できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が好まれるものを優先しながら職員が声掛け支援する場面もある。清潔感を意識し、髪の毛の乱れや洋服のほつれ、汚染などに気づいた時は直ぐに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆拭きや、野菜の下ごしらえをして頂ける方、個々に出来る事を職員と一緒に取り組んでいる。食事状況などから嗜好把握しメニューに取り込んでいる		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を毎日記録しながら健康管理に努めている。状態の低下がみられる時には形態の変更や好みのものを提供しながら摂取量確保に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人、一人の口腔ケアにあたっている。ご自分でできる方も気になる際には確認させていただき状態把握を行い、必要時には歯科受診へとつなげている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録から個々の排泄間隔を把握し、声掛け行いトイレでの排泄を大切にしている。紙パンツやパット類の使用は極力減らすよう職員間でも検討し適切な使用に心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を確認し、食事の際に牛乳や乳製品を提供するとともに内服を調整し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、個々の体調、希望など考慮し行っている。入浴の抵抗が見られる方もタイミングを合わせたり、2人介助を行うなどし安全な入浴が出来る様にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝起床時間は時間設定は行わずご本人のペース、状態に合わせている。午後から午睡される方もおられるが、夜間の睡眠に支障のないよう時間に配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご本人が服用されている内容の薬情報書を職員全員が閲覧できるような管理を行っている。内容変更時も周知確認できるようにしている。薬剤の形態も本人の状態に合わせ薬剤師と相談して対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人差はあるが、ご本人の嗜好を捉えた支援が出来るようにしている。また、ご本人の状態の把握も行い、負担のかからない活動をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族とのお墓参りなどの外出で要請があれば送迎を行うなどし可能な限り希望に添うよう心掛けている。長年利用されていた美容室へ少々遠方ではあるが送迎行い、互いの安否確認にもなって喜ばれている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、自己管理でお金を所持されている方はいないが、ご本人の希望の品物など職員と一緒に外出し買い物されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの贈り物などがあった際には、お礼の電話や手紙を書かれたりしてご家族様も喜んでおられる。ご自分で携帯を利用される方もおられる。親戚の方などの面会があった場合には写真とともに報告している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はご利用者様や面会に来られた方が不快な思いをされることのないよう音量や障害物に配慮している。なかでも臭いには特に気を配り排せつ臭除去、過剰な消臭剤は使用しないようにしている。隣の工場の音が気になる際には窓を閉め空調管理を行い消音に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の意思で自由にリビングや居室で過ごしていただけるような雰囲気を作っている。居室で過ごされる場合にはご本人の不快にならないよう配慮し安全確認させていた		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた家具など持ってきて置いて頂き、大切な写真や手紙など飾り以前と変わらないように環境を配慮している。家族が遠方で荷物の運び出しができない場合は自宅へ行き、電話で話しながらできる限り希望に添うものを持参できるようお手伝いさせていただいている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の案内プレート等設置し、手すり、バリアフリーなど安全な環境を考慮しながら自ら生活を実感できるよう支援している。居室内では個々の動線を確認し安全に配慮しながらも心地よく過ごせる環境整備に心がけている		